

I 教員研修プログラム

- ◆ プログラム体系図
- ◆ 研修日程例
- ◆ 活動事例

防災教育研修プログラム（初級編～上級編）

…活動事例を掲載している研修

	防災体制		防災教育		心のケア
	危機管理	防災訓練	教材開発	災害ボランティア活動	心のケア
初級編	【演習】 学校に避難所が開設された時の運営方法	【演習】 防災訓練の実践方法	【演習】 副読本、学習資料等の活用	【講義】 災害ボランティア基礎知識	【講義】 心のケア基礎知識
	阪神・淡路大震災では、避難所としての指定の有無にかかわらず、多くの学校が緊急の避難所となった。そのため、勤務校が避難所となった場合を想定して、避難所開設区域設定の考え方や開設の手順、避難所運営のルール作りについて理解する	防災訓練は、避難経路の確認のみならず、災害時に起こり得るさまざまな状況を想定し、教職員の役割分担が適切であるか等を評価し、改善していくことが求められることから、実践的な防災訓練を学校で推進するためのノウハウを学ぶ	副読本「明日に生きる」、学習資料「災害から命を守るために」の作成背景を知り、各学校で副読本等を活用した指導ができる力を養う	ボランティア活動の意義や災害ボランティア活動に参加するときの最低限の知識、心構えや子どもたちにボランティアの大切さを教えるときの基本的な考え方を理解する	災害時の児童生徒の心の状況を理解し、教師としての対応を学ぶ
			【発表】 防災教育実践 防災教育の実践を聞くことにより、各学校で防災教育を推進する方法を学ぶ		
中級編	【講義】 兵庫県の防災体制	【演習】 救急救命法	【演習】 防災学習教材の開発及び活用について	【発表・協議】 災害ボランティア実践発表	【演習】 心のケア授業
	兵庫県の危機管理方法、防災情報システム等を学び、学校の防災体制にいかす ※地域防災計画は、各自治体ごとにより策定されているので、研修参加者により県単位、市町村単位に変える	自分の命を守る方法を理解するとともに災害時に児童生徒に正しい救命を行う力を養う	防災学習の指導方法の工夫や教材の開発方法について学ぶ	災害ボランティアに従事するNPO関係者やボランティア実践校の児童生徒等の実践を踏まえ、災害ボランティアとして留意すべきことを考える	不安や心配が大きなストレスを生み心身に影響を及ぼすことを理解し、ストレスの解消方法を正しく身につけて、過去の辛い体験やこれからの困難を自分にとってプラスに転換し、よりよい自分を築く態度を育てることをねらいとする授業（小学生を対象）について学ぶ
		【講義・見学】 防災施設見学 備蓄倉庫、防災施設についての講義や見学等を通じて、兵庫県の防災施設について学ぶ			
上級編	【演習】 被災した学校の早期再開の方法	【講義】 自主防災組織の役割	【協議】 防災教育推進上の工夫	【講義】 ボランティアコーディネーター基礎知識	【演習】 心のケア発展知識
	大規模災害時が発生した時には、一日も早く学校再開することは児童生徒の心のケアに有効であり、そのためには避難所を運営しながら学校再開の準備をしなければならないことから、学校再開までの対応策を理解する	災害時に学校が避難所となった時に、円滑な避難所運営や学校の早期再開のための地域との連携及び地域と連携した防災訓練の方法等について理解する	防災教育を推進する上での課題について、技術的な解決方法だけではなく、災害に強いまちづくりをめざした防災についての理念、教育への位置づけ、市民生活への位置づけなどを総合的に理解しその解決方法を見出す	ボランティアコーディネーターの役割を学び、災害時における学校のボランティアの受入、要請、調整方法を学ぶ	被災児童生徒等の事例をもとに、災害時に教師ができる被災児童生徒等への対応方法を学ぶ
	【演習】 避難所における食の支援方法 学校が避難所となった時の学校の食の支援について理解する		【講義】 各教科における防災教育 地域の災害特性や災害発生のメカニズムについて理解するとともに、各教科からアプローチの方法を学び、防災教育を多角的に見ることができる力を養う		

阪神・淡路大震災の概要

(H22.3.31 現在)

- (1) 地震名
平成 7 年(1995 年)兵庫県南部地震
- (2) 発生年月日
平成 7 年 (1995 年) 1 月 17 日(火) 午前 5 時 46 分
- (3) 震源地
淡路島北部 (北緯 34 度 36 分 東経 135 度 02 分)
- (4) 震源の深さと規模
16 km マグニチュード 7.3
- (5) 震度
7 (神戸、芦屋、西宮、宝塚、北淡、一宮、津名の一部)
- (6) 人的被害

死者	6,434 人	行方不明者	3 人	
	亡くなった公立学校の児童生徒数	296 人	(H7.3.31 現在)	
	保護者を亡くした児童生徒数	283 人	(H7.3.27 現在)	
負傷者	重傷	10,683 人	軽傷	33,109 人
			合計	43,792 人
- (7) 住宅被害

全壊	104,906 棟 (186,175 世帯)
半壊	144,274 棟 (274,182 世帯)
- (8) 被害のあった学校数 1,096 校
- (9) 避難所数
1,153 箇所 内 避難所となった学校 389 校
- (10) 避難者数
316,678 名 内 学校への避難者数 180,227 人 (ピーク時・1月23日)
- (11) ライフラインの被害と復旧に要した日数

電気停電	約 260 万戸	完全復旧	1 月 23 日
ガス停止	約 85 万 7 千戸	完全復旧	4 月 11 日
水道断水	約 127 万戸	完全復旧	4 月 17 日
- (12) 災害救助法適用市町 (震災当時の名称)
神戸市、尼崎市、明石市、西宮市、洲本市、芦屋市、
伊丹市、宝塚市、三木市、川西市、津名町、淡路町、
北淡町、一宮町、五色町、東浦町、緑町、三原町、南淡町 (10 市 10 町)

研修日程及び講師・助言者等（例）

防災教育研修プログラム [初級編]

日程・講師・助言者等

月日	時 間	研 修 内 容	講 師 ・ 助 言 者 等
第 1 日	9:00	受付	
	9:30	開講式	
	9:40	挨拶 オリエンテーション	
	9:40	講義 兵庫県における防災教育	教育委員会指導主事等
	10:10		
	10:20	演習 学校の避難所運営方法	災害時、学校に開設された避難所運営を経験した教職員等
	12:00		EARTH 員
	13:00	講義 災害ボランティアの基礎知識	ボランティア活動家、NPO 活動家、 専門家（社会福祉協議会、赤十字等の職員）
第 2 日	14:30		
	14:40	演習 防災訓練の実践方法	消防局職員 自主防災組織関係者等
	17:00		EARTH 員
	9:00	発表 防災教育実践	実践校の教諭等
	10:20		EARTH 員
	10:30	講義 心のケア基礎知識	専門家（精神科医、臨床心理士等）
	12:00		
	13:00	講義・演習 防災教育副読本、学習資料等の活用	教育委員会指導主事 実践校の教諭等 (兵庫県内の場合 EARTH 員)
第 2 日	15:50		
	16:10	閉講式	
	16:20		

防災教育研修プログラム [中級編] 日程・講師・助言等

※第1日目は該当都道府県の防災施設での実習及び見学
兵庫県での実施例を挙げています。

月日	時 間	研 修 内 容	講 師 ・ 助 言 者 等	場 所
第1日	9:30	受付		兵庫県広域防災センター
	10:00	開会行事		
	10:15	実習 AEDの説明と実践	兵庫県消防学校教官	
	12:00			
	12:45	実習 災害活動における安全管理の基本	兵庫県消防学校教官 兵庫県広域防災センター職員	
	14:15	(地震体験、煙避難体験、消火訓練) ＊備蓄倉庫見学を含む		
	14:15	講義 広域防災センターの施設概要とその役割	兵庫県広域防災センター センター職員	
	15:00			
	15:15	講義・見学 実大三次元震動破壊実験施設について	兵庫耐震工学研究センター (Eーディフェンス)	
	16:15			
	16:15	まとめ		
第2日	9:00	講義 兵庫県の防災体制（災害対策基本法、防災情報システム等）	兵庫県防災企画局防災計画室等	県立教育研修所
	10:10			
	10:20	演習 教材を活用した防災教育	教育委員会指導主事 大学等の教員 防災教育の教材開発を行っている NPO 等関係者等	
	12:00			
	13:00	講義 災害ボランティア実践発表	災害ボランティアの経験者 (NPO 法人、高校生等)	
	14:00			
	14:10	演習 心のケア授業	臨床心理士・スクールカウンセラー等 EARTH 員	
	16:00			
	16:00	閉会行事		
	16:20			

防災教育研修プログラム [上級編]

日程・講師・助言者等

月日	時 間	研 修 内 容	講 師 ・ 助 言 者 等
第 1 日	9:00 9:30	受 付	
	9:30 9:40	開会行事 挨拶	
	9:40 10:30	講 義 各教科における防災教育	実践校の教諭等 大学等の教員 EARTH 員
	10:40 12:00	協 議 防災教育推進の工夫	教育委員会指導主事
	13:00 15:00	演 習 被災した学校の避難所における食 の支援方法	災害時、学校に開設した避難所運営の経 験者 EARTH 員
	15:10 17:00	演 習 被災した学校の早期再開の方法	災害時、学校の早期再開に従事した経験 のある教職員 EARTH 員
第 2 日	9:00 10:00	講 義 自主防災組織の役割	自主防災組織関係者等
	10:10 12:00	講義・演習 災害ボランティアコーディネータ ー基礎知識	ボランティア活動家、NPO 活動家、 専門家（社会福祉協議会、赤十字等の職 員）
	13:00 15:00	講義・演習 心のケア発展知識	専門家（精神科医、臨床心理士等）
	15:10 15:50	研修のまとめ	
	15:50 16:00	閉会行事	

活 動 事 例

初級編	学校に避難所が開設された時の運営方法				
所要時間	110分	人数	5人×6班	場所	教室
ねらい	【防災（避難）訓練立案者・学校防災マニュアル作成担当者】 阪神・淡路大震災では、避難所としての指定の有無にかかわらず、多くの学校が緊急の避難所となった。そのため、勤務校が避難所となった場合を想定して、避難所開設区域設定の考え方や開設の手順、避難所運営のルール作りについて理解する。				
研修内容	避難所開設区域の設定や開設手順、避難所運営のルール作りについて図上訓練等により演習する。				
準備物	校舎配置図（A2版程度に拡大する）、付箋（75mm×50mm） 補助資料 p.53～56「避難所としての学校の部屋割りについて」、p.56「県及び市町の要援護者への援助方針」				
参 考	学校防災マニュアル（改訂版） p.36～46 http://www.hyogo-c.ed.jp/~somu-bo/bousaimanual/05-3shou.pdf				

	内 容	活 動	備 考〔学習単位〕
導 入 (10)	阪神・淡路大震災時、学校に開設された避難所の様子を理解する。	①避難所の写真を見る。 ②救援物資の配布、プライバシー保護など避難者自身も協力するべきことを理解する。 ③各自治体の地域防災計画を知る。	〔全体〕 ○体育館に開設された避難所や仮設トイレなどの様子の分かる写真を用意する。
展 開 1 (20)	避難所に必要な場所（施設・設備）について協議する	①班別となり本部や仮設トイレなど避難所運営で必要となる場所（施設・設備）を付箋に記入する。 ②①で付箋に記入した場所（施設・設備）を緊急度A・B・Cにランク付けする。 ③特に要援護者に対して配慮する点について検討する。	〔班別〕 ○校舎配置図、付箋を配布する。 ○避難所として必要な場所の例を示すなどの助言をする。 必要な場所（施設・設備）は補助資料等を参照。 ○避難所に入る人数や避難期間に応じて、必要となる一人分の面積をもとに避難所として必要な面積を避難区域に割り当てる。 ○緊急度 （高い）A-B-C（低い）

展開 2 (30)	避難所になったときを想定して、班ごとに配置図を活用し各部屋の部屋割りを検討する。	①校舎配置図に立入禁止（非開放）区域の記入。 ②「緊急度A」の場所から学校の部屋割りをを行い、校舎配置図に付箋を貼っていく。 ③各班で班員の意見をまとめながら、決定したものから校舎配置図に記入していく。	〔班別〕 ○円滑に進行できるよう適宜、助言する。
展開 3 (25)	避難所運営のためのルールやマナーについて検討する。	①補助資料をもとに避難所運営のためのルールやマナーについて協議する。 ※補助資料 p.61～63「避難所における共通理解ルール（例）」等を参照	〔班別〕 ○震災時の避難所の状況などを伝えイメージしやすくする。例を挙げるなどして考え方を示す。
まとめ (25)	発表と評価	①班ごとに部屋割りの配置図や避難所運営のためのルールやマナーについて発表する。 ②避難所として学校の部屋割りの例を示す。 ③まとめ、総括をする。	〔班別〕 ○「振り返り」の時間を確保する。 ○各班の結果を評価する。 ○成果物を配布する。

【留意点】

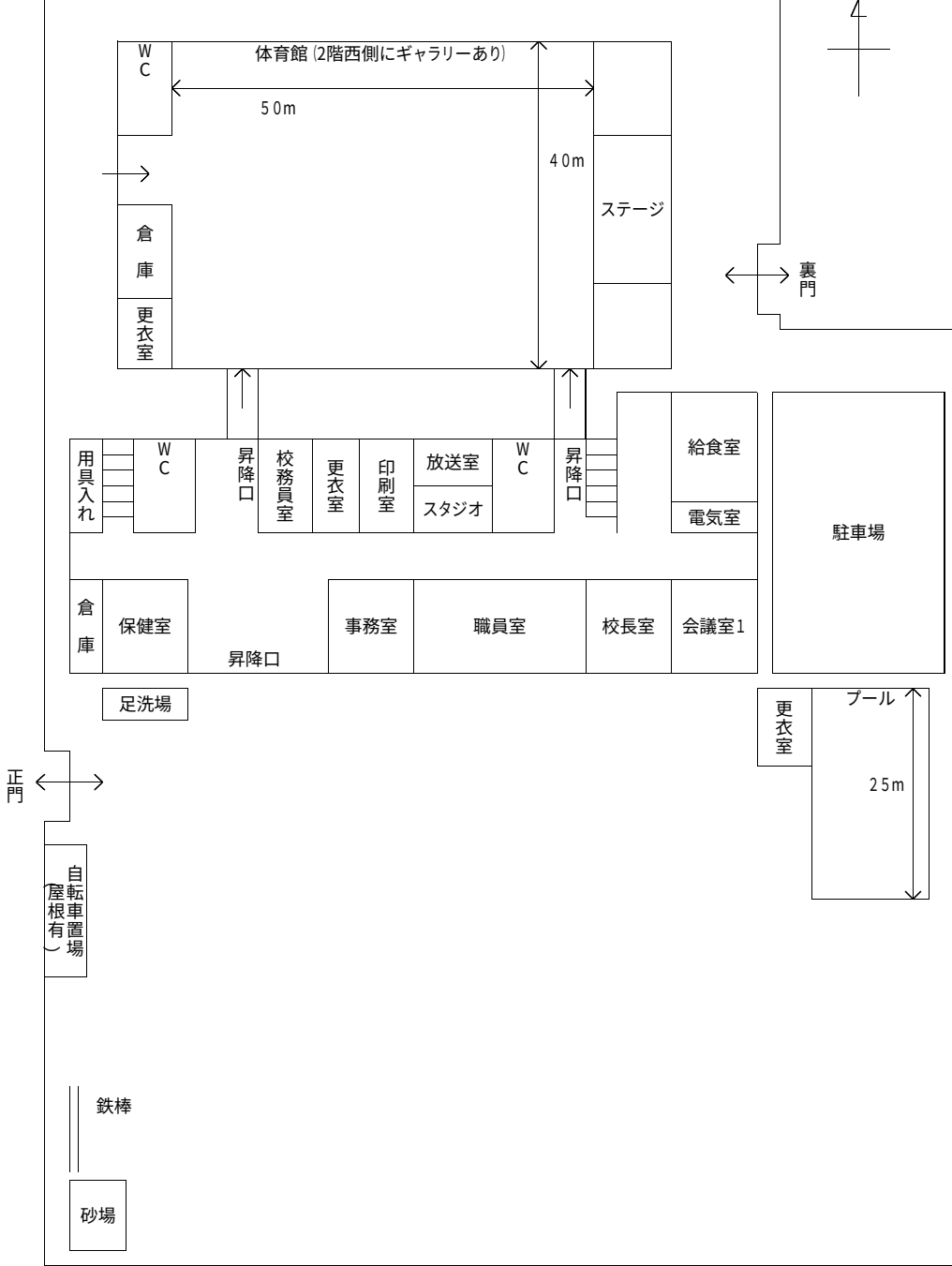
〈準備〉

- 本研修の冒頭に、写真やイラスト、DVD 等の災害（地震、風水害等）時の被害状況や学校に開設された避難所の様子などをイメージしやすい補助資料があると効果的である。
- 添付資料の校舎配置図は付箋を貼っていくので、A2 版の大きさに拡大する。これは班員全員が同じ資料を見て協議できるという点でも有効である。

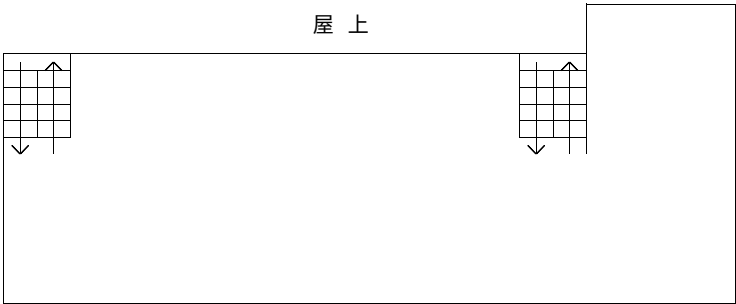
〈発展〉

- 校内研修では、校舎配置図を準備し実際に校内を巡回すると、その学校に応じた部屋割を検討できる。
- 災害時の対応として、避難所運営について、この研修結果を活用し、開放区域や開放順序をあらかじめ決めておくことが学校防災体制として重要である。

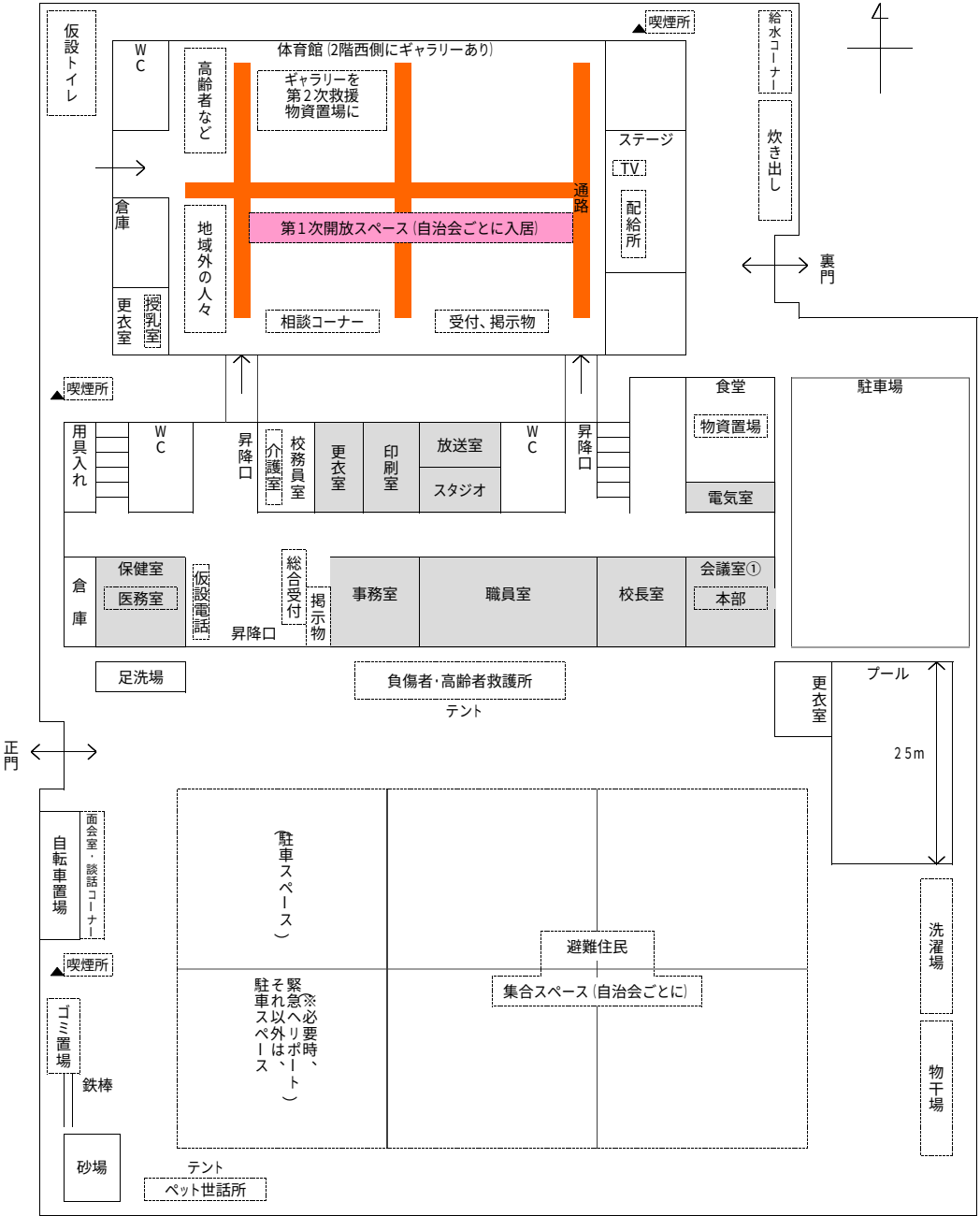
校舎配置図



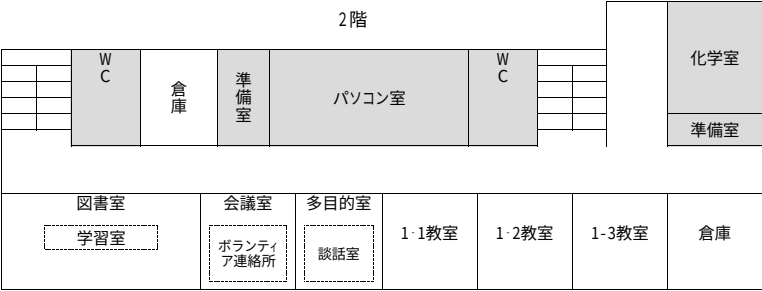
【想定】
11月下旬、晩秋天気もよい。大規模地震が平日早朝5:30頃に発生。(余震のおそれ有り) 100人ほどの人が避難所(学校)に集まってきており、どんどん増えている。電気、ガス、水道が途絶。幸いなことに校舎に危険な箇所はない。



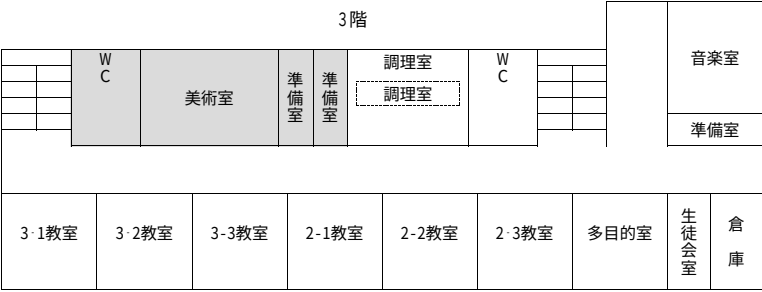
【校舎配置図】避難所としての学校施設利用計画（例）



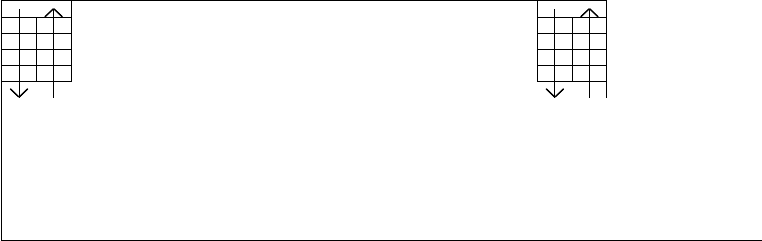
立入禁止（非開放）区域



第2次開放スペース



屋上



初級編	副読本、学習資料等の活用				
所要時間	120分	人数	6人×5班	場所	教室
ねらい	【防災教育の授業担当者】 副読本「明日に生きる」、学習資料「災害から命を守るために」の作成背景を知り、各学校で副読本等を活用した指導ができる力を養う。				
研修内容	震災等災害体験のない児童生徒を指導することを前提に、指導案の作成を通して既存の副読本、学習資料等の活用方法を協議する。				
準備物	ワークシート〔副読本、学習資料等の活用〕、教材提示装置 スクリーン				
参 考	副読本「明日に生きる」（兵庫県教育委員会発行） (http://www.hyogo-c.ed.jp/~kikaku-bo/asuniikiru/index.html) 学習資料「災害から命を守るために」（兵庫県教育委員会発行） (http://www.hyogo-c.ed.jp/~kikaku-bo/117/117.htm)				

	内 容	活 動	備 考〔学習単位〕
導 入 (15)	「明日に生きる」「災害から命を守るために」の作成の背景を知る。	①研修の進め方の説明 副読本等の中から1教材を指定し、1～2時間の授業展開例を考える。 ②副読本等の作成の背景の説明 「阪神・淡路大震災の概要」等を参考に命の大切さや防災教育の必要性などを説明する。	〔全体〕 ○班編成は校種別が望ましい。 ※【留意点】参照
展 開 1 (15)	「明日に生きる」「災害から命を守るために」の活用方法を自分なりにまとめる。	①各自、これまでの実践をワークシート等に簡潔にまとめる。 ②副読本・学習教材の活用実践のない者には、授業展開案の作成を指示する。	〔個別〕 ○「読む→感想を書く」といった一方通行の指導とならないような工夫を促す。
展 開 2 (50)	「明日に生きる」「災害から命を守るために」の教材の展開例を共同で作成する。	①班員で協議しながら班で1案の展開例の略案をワークシート〔副読本、学習資料等の活用〕にまとめる。	〔班別〕 ○おおまかな流れと目的がわかるように記入するよう助言する。 ○全員の意見を聞きながら班別協議を進める。

展開 3 (30)	他の班の展開例を知る。	①班ごとに展開例を発表する。展開2で作成したワークシート〔副読本、学習資料等の活用〕を教材提示装置等でスクリーンに示しながら説明を行う。 ②班ごとによい点や「こうすればもっとよくなる」点を出し合う。	〔全体〕 ○1班3～5分でポイントのみ説明する。 ○すべての班の説明後に協議する。 ○担当の指導助言があれば行う。
まとめ (10)	展開例を完成する。	①協議結果をもとに、各班の展開例を修正する。	〔全体〕 ○評価、アドバイスをを行う。 ○事例をHPなどで後ほど紹介する ○資料はコピーして全員に配布するとよい。 （今後受講者が活用することを全員に了解してもらう。）

【留意点】

〈準備〉

- それぞれの地域で作成している防災教育副読本や学習資料を活用する
- 兵庫県教育委員会作成の副読本「明日に生きる」、学習資料「1.17 は忘れない学習資料」は兵庫県教育委員会教育企画課HPからダウンロードできる。

〈進行〉

- 教材を指定しているように、テーマを明確にすると協議にとりかかりやすく演習時間が保障される
- 多くの受講者が、すでに実践を行っている場合、テーマを絞らず、班ごとに違うテーマで展開例を作成することで、多くの教材の指導案を受講者が共有できる。
- この演習の前に副読本が作成された過程についての講演があると副読本にこめられた思いや災害時の状況を伝えることができる。

〈発展〉

- PCの使用が可能であれば、あらかじめ受講者にUSBなどの電子媒体を準備するよう伝えておくと持ち帰ることができる。後でホームページ等に掲載する等により活用を促すことができる。

ワークシート〔副読本、学習資料等の活用〕

防災教育副読本や学習資料の活用について

○「明日に生きる」を活用した授業展開例

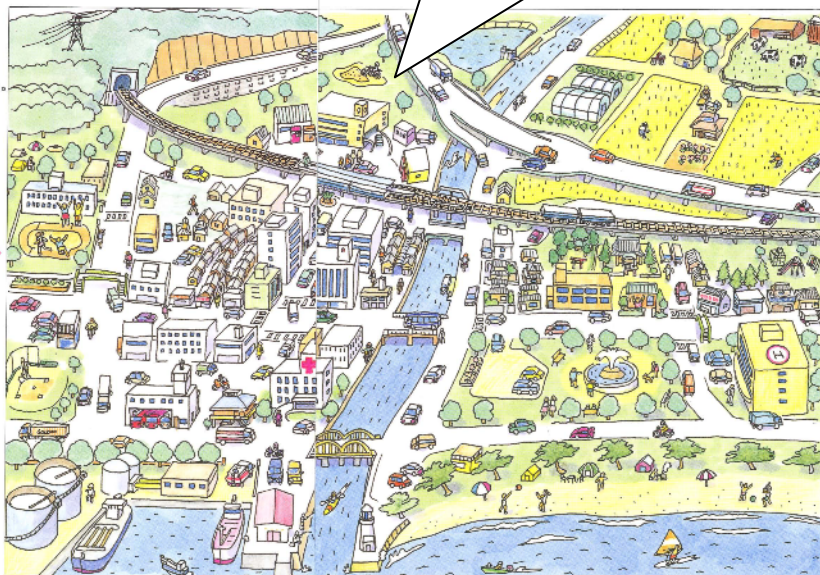
- ・対象校種（ ） 対象学年（ ）
- ・授業時間（ 1 ）時間
- ・目的（防災訓練後の事後学習）
- ・展開

時間	展開	活用する資料・ページ

防災マップをつくろう

- ・危険だと思われるところはどこだろう。
- ・避難場所はどこだろう。

右の絵地図を見て 話しあおう



中学生
校区内の防災マップの作成

自分たちの町を実際に歩き、危険なところ、避難場所などを確かめて、防災マップをつくってみよう。

小学生1・2・3年
防災会議を開く(学校、家庭)

地震が起きたら

がっこう
[学校に いるとき]
● 教室



● ろうかや かいだん



初級編	防災訓練の実践方法				
所要時間	120分	人数	5人×8班 (校種ごとに構成)	場所	教室
ねらい	【防災（避難）訓練立案者、学校防災マニュアル作成担当者】 防災訓練は、避難経路の確認のみならず、災害時に起こり得るさまざまな状況を想定し、教職員の役割分担が適切であるか等进行评估し、改善していくことが求められることから、実践的な防災訓練を学校で推進するためのノウハウを学ぶ。				
研修内容	実施計画の作成を通して、実践的な防災訓練（事前指導・事後指導を含む）となるよう、従来の避難訓練の改善を工夫する。				
準備物	ワークシート、補助資料 p.66～67 教材提示装置、スクリーン または模造紙、マジック（黒、赤、青）、掲示用マグネット				
参 考	自校の防災（避難）訓練実施要項、「学校防災マニュアル」改訂版 （兵庫県教育委員会）p.69 http://www.hyogo-c.ed.jp/~somu-bo/bousaimanual/bousaimanual.htm				

	内 容	活 動	備 考〔学習単位〕
導 入 (25)	防災訓練の重要性や意義を理解する。	①防災訓練の重要性や意義について、講義を聴き理解する。 ・児童生徒の避難訓練 ・発災時の教職員の役割分担や災害時の学校防災体制の確認 ②補助資料「防災（避難）訓練について」を参考に今回作成する防災訓練の想定場面や状況設定などを班ごとに決める。	〔全体〕 ○本時の目標「実践的な防災訓練を学校で推進するためのノウハウを学ぶ」を確認する。
展 開 1 (20)	他の人の意見を聴き、情報を共有し、自分の考えを深める。	①防災訓練の想定場面や状況を設定した理由を各班員が発表し情報の共有化を図る。 参加者、災害の種類、被害の程度等も具体的に想定する。 ②班別協議で防災訓練のアイデア等を出し合う。	〔班別〕 ○校種ごとの班を編成する。 ○校舎配置図等を使用して、訓練での人の動きを具体的に協議する。 メモは付箋等に記入し、校舎配置図に貼っていく。

展開 2 (35)	学校で実践できる防災訓練案を作成する。	①各班員の発表で出された防災訓練のアイデアを基にして、学校で実践できるよう工夫した防災訓練を班員で協議する。 ②校舎配置図等のメモをもとに、時間配分等を協議し、ワークシート〔防災訓練の実践方法〕-1の作成	〔班別〕 ○ねらい、対象等を明確にするよう指示。 ※ねらいを1つに絞って計画する。 ○教材提示装置がない場合は模造紙を使用する。
展開 3 (25)	他班の防災訓練案を聴き自分の考えを深める。	①各班の作成した防災訓練の指導案を提示し、班の代表が工夫点、留意点等を発表する。 ②質疑応答	〔全体〕 ○各班発表3分程度、質疑応答2分程度。 ○発表後すぐに質疑応答することが望ましい。
まとめ (15)	共有した防災訓練案を各学校へ持ち帰り防災教育を推進する。	①研修のまとめをする。 ②今回作成した指導案をもとに実際に行うよう伝える。	〔全体〕 ○指導案に対するコメントを行う ○「振り返り」の時間を確保する。 ○作成された指導案を後でホームページ等に掲載し共有する。

【留意点】

〈準備〉

- あらかじめワークシート〔防災訓練の実践方法〕-2を配布し記入したものを持参すると協議内容が深まる。ただし、その場合には、受講者の発表時間を超えることが多いので、進行役による発表時間のコントロールが必要となる。

〈発展〉

- 問題意識を高めるためには・・
 - ・阪神・淡路大震災や中越地震等身近な地域で起こった災害による校舎や教室、グラウンド等の被害状況を映像で知る。
 - ・先進的な取組のある学校の実践発表聴く。
 - ・消防局や防災教育担当課による講義を聞く。
- 自校の防災訓練要項などを持参し受講者どうしで情報交換する。

防災訓練の指導案

() 班 (校種)

1 日時

2 ねらい

3 参加者

4 状況

5 想定

段 階	内 容	その他(留意点、工夫した点、準備物など)
事前指導		
防災訓練		
事後指導		

ワークシート [防災訓練の実践方法] -2

(事前記入用)

自校の防災訓練の実態等

(お名前

)

1 地域の災害特性				
2 自校の防災訓練の現状				
3 内容	時期	①	②	③
	状況設定			
	想定場面			
	参加者			
	ねらい			
	事前・事後指導			
4 成果				
5 課題・改善点				
6 その他				

中級編	防災学習教材の開発及び活用について				
所要時間	100分	人数	4～5人×6班	場所	教室
ねらい	【防災教育の授業担当者】 防災学習の指導方法の工夫や教材の開発方法について学ぶ。				
研修内容	災害時に持ち出しが必要となるものをランキング付けする学習活動を通して、災害への備えを考える参加体験型の防災学習の教材の開発及び活用について演習する。				
準備物	〔非常持ち出し袋の中身カード、記入シート〕×班の数、ワークシート〔防災学習教材の開発及び活用について〕、教材提示装置、スクリーン				
参 考	補助資料 p.68 ～p.73 「非常持ち出し袋を考えてみよう」				

	内 容	活 動	備 考〔学習単位〕
導 入 (5)	本時の課題を知る。	①阪神・淡路大震災の教訓から、睡眠時の発災に対しても備える必要性を理解する。	〔全体〕
展 開 1 (5)	「非常持ち出し袋を考えてみよう」のルールについて理解する。	①補助資料を参考に「非常持ち出し袋を考えてみよう」の進め方とルールを理解する。	〔班別〕 ○進め方、ルールは補助資料 p.68 参照
展 開 2 (20)	「非常持ち出し袋を考えよう」を実施する。	①「非常持ち出し袋を考えてみよう」に基づき、演習を行う。 ②班ごとに、災害に備えた非常持ち出し袋の中身について、意見交換を行いながら、非常持ち出し品を決めていく。	〔班別〕 ○「家族構成や状況によって選ぶ持ち出し品は違いがある。」など状況をより具体的に助言を加えていく。
展 開 3 (10～15)	各班の意見を聞き、様々な考え方があつたことを学ぶ。	①各班の代表が、非常持ち出し袋に入れた持ち出し品、選んだ理由、班内の意見交換の内容等を発表する。 ※全班のカードを黒板に掲示し、それを見ながらその場で簡潔に発表	〔全体〕 ○特に意見が分かれたもの、班内で「なるほど」と思った意見、少数意見などにも注目する。 ※可能であれば被災時の状況を出し合う。それぞれの経験（まだ小学生だった人もある）で話すとよい。

展開 4 (35 ～ 40)	「非常持ち出し袋を 考えてみよう」の指導 方法について検討す る。	①展開3までの活動を踏まえ、 指導方法について班ごとに 検討しシートに記入。 例) 誰を対象とするか、ど んな場面で実施するか、どん な災害を想定しているか、な どについて検討。	[班別] ○実践例の紹介だけにとど まらず、実施する時の工 夫を検討する。 ○ねらいや対象者によって 展開のポイントが変わ る。
ま と め (20)	各班から展開4で検 討した意見を発表し、 理解を深める。	①教材提示装置を使い、各班の 代表が、指導法について検討 した内容を発表する。	[全体] ○防災学習の教材の活用に ついてまとめる。

【留意点】

〈準備〉

- 展開1で、進め方とルールを説明する時には、受講者全員に見えるように大きなカードを使うなど工夫したい。児童生徒が行う時は、袋や持ち出し品は本物らしいものを準備する。

〈進行〉

- 指導方法を検討するのが目的なので、展開2での意見交換は、カードを一斉に掲示し、代表はその場でポイントを絞って発表する。

〈さらに〉

- ゲームをして終わりにならないために、地域の災害特性に応じた災害を想定し、どんな状況になるのか、そのときの様子や教訓を子どもたちに伝えることが重要。そのためにも教師同士で体験などの綿密な情報交換を行いたい。

防災教育チャレンジプラン「非常持ち出し袋を考えてみよう」

(神戸学院大学学際教育機構 防災・社会貢献ユニット作成) から引用

「非常持ち出し袋を考えてみよう」班別協議 記録〔 〕班

協議内容

指導方法について検討

- ① 実際にゲームをやってみて気付いたことを出し合う。
- ② 実践された方があればそのときの様子や指導の際に注意することなどを紹介してください。
- ③ 「ゲームをやって終わり」とならないための工夫を検討してください。
(どんな場面で実施するか、条件の変化、参加者、ねらいなど)

まとめ

中級編	ボランティア実践発表				
所要時間	70分	人数	5～6人×5～8班	場所	教室
ねらい	【ボランティア活動の指導者等】 災害ボランティアに従事する NPO 関係者やボランティア実践校の児童生徒等の実践を踏まえ、災害ボランティアとして留意すべきことを考える。				
研修内容	災害ボランティアに従事する NPO ボランティアに参加している児童生徒等の発表を聴き、ボランティア活動の留意点や成果などについて協議することにより、ボランティア活動を指導する時の留意点や指導方法を学ぶ。				
準備物	PC、プロジェクター、スクリーン等実践発表に必要な機器				
参 考	なし				

	内 容	活 動	備考〔学習単位〕
導 入 (5)	本時のねらいの説明	①本研修のねらいの説明、NPO 関係者や高校生等の紹介を聞く。	〔全体〕
展 開 1 (30)	発表	①ボランティア活動に参加した動機、自己評価や感想、失敗談などの実践発表を聴く。	〔全体〕
展 開 2 (25)	発表内容の整理と協議 協議題を提示 班ごとに協議	①コーディネーターは発表内容を整理し、この後の協議題を提示する 例)「ボランティア活動をどう教えるか」 「災害ボランティアに行く際の準備」 など ②班に分かれ、与えられた協議題について協議する。 ③班としての結論を記録する。 ※班別協議には講師に参加してもらうことも可能	〔班別〕 ○班内で進行役を決めるなど協議が円滑に進むよう助言する。 ○発表は簡潔にできるよう内容を工夫する

発表 と ま と め (10)	発表	①班の代表者が協議した内容を発表する ②コーディネーターは各班の発表について助言し、まとめる。	〔全体〕 ○発表時間 3 分程度 ○簡潔に発表する。
--------------------------------	----	--	----------------------------------

【留意点】

〈進行〉

- コーディネーターは、災害ボランティアに参加したり、指導した経験のある教諭、大学等における研究者等が望ましい。

〈進行〉

- 実践発表者について

実践者が高校生等の場合は、授業等との関係で研修会場での発表が難しいことも考えられる。発表の様子を DVD 等で上映したり、学校と研修会場を結び中継したりするなどの工夫が必要である。後者の方法が可能であれば、発表だけでなく質疑応答ができ研修効果が高いと考えられる。

阪神・淡路大震災 10 年検証より

◇学校におけるボランティア教育の推進

阪神・淡路大震災では、国内外から延べ 130 万人を超すボランティアが駆けつけ、避難所における生活の支援を始め多種多様な活動を展開したため、ボランティア活動の重要性が改めて認識された。このことから、学校においてもボランティアの理念等についての学習機会の充実に努めるとともに、国籍を超えて「共に生きる」社会づくりに向けた実践的活動が日常的に行えるよう学校におけるボランティア教育の一層の推進を図ることが大切である。

中級編	心のケア授業（小学校）				
所要時間	120分	人数	5～6人×6～8班	場所	教室
ねらい	【学級担任、教育相談担当者等】 不安や心配が大きなストレスを生み心身に影響を及ぼすことを理解し、ストレスの解消方法を正しく身につけて、過去の辛い体験やこれからの困難を自分にとってプラスに転換し、よりよい自分を築く態度を育てることをねらいとする授業（小学生を対象）について学ぶ。				
研修内容	災害が引き起こすストレスとその反応について理解し、被災児童生徒のストレスを解消する方法の一つとして紙芝居を作成する。				
準備物	画用紙、マジック（6色） 補助資料 p.74～p.79「かぼくんの気持ち」				
参 考	補助資料 p.94～p.95				

	内 容	活 動	備 考〔学習単位〕
導 入 (10)	ストレスが引き起こす心身への影響を理解する。	① 「災害による心的ストレスの概念」を参考にストレス反応について理解する。 ② 過度のストレスの影響を理解する。 ・身体的影響 ・情緒的影響 ③ ストレス解消方法を考える。	〔全体〕 ○補助資料や講師の指導によりストレスについて理解を深める。
展 開 1 (15)	様々なストレス解消方法を身につける。	① 自らの不安や課題にむかって冷静に対処する方法を学ぶ。 ・呼吸法 ・動作によるリラクセーション ・ペアーリラクセーション ・アロマリラクセーションなど （参照 補助資料 P.80～P.81）	〔全体〕 ○講師の指示に従い、受講者は実際に体験する。 ○受講者のアイスブレイキングも兼ねる。
展 開 2 (15)	被災児童生徒への対応方法を学ぶ。	① 紙芝居「かぼくんの気持ち」を話題に、班での協議を通して被災した子どもたちの心情や対応を理解する。 （例） ・大きな災害では誰でも恐怖や不安を感じる。 ・親しい人に寄り添っていくように心がける。 ・自分自身に対してゆっくりと元氣になっていくよう心がける。	〔班別〕 ○児童に読み取ってほしい心情や対応を読み取る視点で意見を出し合う。

展開 3 (45)	被災児童生徒を想定し、心のケアの実践的手段を開発する。	①資料「かぼくんの気持ち」を参考にして自分たちが活用しやすい紙芝居を作成する。 ※自分の言葉で語りかける教材として作成する。個人・班別どちらの作業となってもよい。 ※紙芝居にこだわらず物語だけでもよい。演習時間によって調整する。	〔個人・班別〕 ○紙芝居作成はストーリーを重視し、絵にはこだわらない。 ○紙芝居の時間は5分程度
まとめ (35)	発表 まとめ	①グループごとに発表し情報交換することにより、児童生徒へのよりよい言葉がけや対応を身につける。 ②講師によるまとめを聞く	〔全体〕 ○情報交換時間を確保する。

【留意点】

〈進行〉

- 講師は臨床心理士、精神科医など専門家が望ましい。
- 「紙芝居をつくる」ことが苦痛な受講者もあると考えられる。受講者全員が絵を書かなければならないわけではないわけではない。簡単な○と□、線などで表現してもよい、また、ストーリーだけでもよい。できれば、班内で役割分担するなどしてできるだけ紙芝居を作成したい。

〈さらに〉

- 小学校の低学年の児童の場合、不安や恐怖などをうまく言葉で表現できなかったり、状況を把握できなかったりすることが多いので、紙芝居を使ってストレスを解消する方法を理解させ、安心できるように指導する。保護者や担任などの身近な信頼できる大人が寄り添うことは、子どもの心のケアには大切なことである。

教師ができる災害時の心のケア

- ・身近な教職員の深い関わりが心のケアのポイント
- ・継続的で注意深い観察と専門家や専門機関との連携を
- ・一体感の感じられる行事、遊びや運動を取り入れて組織的な対応を

〈EARTH ハンドブックより〉

上級編	被災した学校の早期再開の方法				
所要時間	110分	人数	5人×6班	場所	教室
ねらい	【学校防災マニュアル作成担当者等】 大規模災害時が発生した時には、一日も早く学校再開することは児童生徒の心のケアに有効であり、そのためには避難所を運営しながら学校再開の準備をしなければならないことから、学校再開までの対応策を理解する。				
研修内容	災害時における学校の早期再開と避難所運営の方法について時間軸に沿って演習する。				
準備物	模造紙、マジック（黒、赤、青）、震災当時の様子が分かる写真やDVD、補助資料 p.82 ～p.85				
参 考	なし				

	内 容	活 動	備 考〔学習単位〕
導 入 (20)	災害時における学校の早期再開の重要性と課題となることを知る。	①発災時の状況を知る。 ②震災時の経験から、子どもたちや地域住民にとって学校が安心の拠り所となったことを知る。 ・発災後一日も早く学校再開をすることは、児童生徒の心のケアにも有効である。 ・実際には、避難所を運営しながら学校の再開準備を行わなければならない。	〔全体〕 ○写真やDVD等で震災当時の状況や直近の災害の状況を知る。 例) 校舎、教室、グラウンド、体育館、校区内の建物や道路等の状況を理解する。
展 開 1 (25)	学校再開に向けての手順を考え理解する	①各班で学校再開の手順について各自で考える。 例) 学校を再開するための5原則 ・ライフラインの復旧 ・教職員等スタッフの確保 ・学習の場の安全確保 ・通学路の安全確保 ・保護者への周知と理解 ②①で考えた意見を出し合い、模造紙に記入する。	〔個人・班別〕 ○各人で考える 5分 ○班で協議 20分 ○例を挙げるなどして協議を円滑に進める。

展開 2 (25)	避難所運営の手順を理解する	①写真やDVDを使って避難所の様子をイメージする ②各班で避難所運営の手順について意見を出し合い、模造紙に記入する。	〔全体〕 例) 避難所に設置された伝言板、仮設トイレ、物資の配布の様子、グラウンドの様子等が分かる資料を準備する。
発表 (20)	各班の発表を聴く	①各班で作成された資料（模造紙）を提示し、各班の代表が発表をする。 ・学校再開の準備と避難所運営は並行して進むことから計画的な対応が重要である。	〔全体〕 ○多様な考え方があることや災害時には状況に応じて対応することを知る。
まとめ (20)	学校再開までの手順、避難所運営について理解する	①研修のまとめをする（補助資料を参照） ②発災直後の対応が重要であるため、日頃から避難所運営、学校再開へ向けてのマニュアルの作成が必要であることを理解する。	〔全体〕 ○各班の発表内容に対して助言する。 ○学校再開や避難所運営の手順について詳しく説明する。 ○「備え」の重要性を伝える。

【留意点】

〈進行〉

- 災害時の、避難所開設や運営については、各都道府県の地域防災計画に従う。
 兵庫県では、激甚災害地と指定され、兵庫県教育委員会が認めた場合は避難所運営について最大7日までは教職員が関わる場合もあるとなっていることに基づいて実施している研修である。

上級編	避難所における食の支援方法				
所要時間	120分	人数	5人×6班	場所	教室
ねらい	【栄養教諭、学校栄養職員、災害ボランティア希望者等】 学校が避難所となった時の学校の食の支援について理解する。				
研修内容	近年では大きな災害が発生した場合、避難所では、おにぎりやアルファ化米、乾パンなどの非常食が準備される。食が空腹を満たすだけでなく、心の安定にも大きく寄与することを踏まえ、避難所における食の支援方法について演習する。				
準備物	模造紙、マジック（黒、赤、青）、ワークシート「避難所における食の支援方法」-1、-2、補助資料 p.86～p.93				
参 考					

	内 容	活 動	備考〔学習単位〕
導 入 (10)	阪神・淡路大震災時の食の状況や課題を知り、「食の支援」の必要性を理解する。	①阪神・淡路大震災時の避難所における食の状況や課題から「食の支援」の必要性について説明を聴く。	〔全体〕 ○実際に避難所の食事を経験することも理解のためには効果的である。
展 開 1 (10)	避難所開設の手順を知り、「食の支援」の流れを理解する。	①避難所開設から「食の支援」を継続して行うことの必要性について考える。	〔全体〕 ○補助資料を活用する。
展 開 2 (30)	避難所において教職員ができる「食の支援」を考える。	①校種ごとに班を作り「ワークシート1」をもとに、想定される内容について、課題や配慮する点を協議する。	〔班別〕 ○自己紹介を兼ねて「ワークシート1」にそって協議する。 ○補助資料を活用する。

展開 3 (30)	学校再開にむけての「食の支援」を考え、学校給食の果たす役割を理解する。	①「ワークシート2」をもとに学校給食再開にむけての手順や課題を協議する。 ②長期的な課題についても協議する。	〔班別〕 ○職種の役割を考えながら、「ワークシート2」にそって協議する。
展開 4 (30)	災害時における「食の支援」が時間の経過とともに、変わっていくことを共通理解する。	①各班で協議した内容を提示し、「食の支援」の流れや課題について発表する。	〔全体〕 ○各班3分発表のポイントを明確にする。
まとめ (10)	災害時の「食の支援」が長期的に必要なことを確認する。	①研修のまとめをする。 ②「食の支援」の流れの大切さをまとめる。	〔全体〕 ○「振り返り」の時間を確保する。

【留意点】

〈進行〉

- 〈ワークシート2〉「学校給食再開に向けての支援」は、栄養教諭を含む学校給食に詳しい教職員を対象とするとよい。

教諭だけの場合は、班別協議の状況により学校給食について適宜、助言するか、または、演習の間に講義を入れ、受講者の理解を深めた後、演習を続ける方法もある。

〈発展〉

- 災害時の避難所における「非常時における食事」について（EARTH ハンドブックより）

(1)非常時における食事の重要性

- ・食事は生命・健康・体力の維持に欠かせない。
- ・あたたかい食べ物の提供は、非常時で緊張した気持ちをほぐす役割を果たし、心のケアにもつながる。
- ・学校給食の早期再開は、児童生徒の心身の安定に大きな役割を果たす。

(2)災害発生時からの時間経過と避難所における食の支援の変化（例）

備蓄庫などの非常食を提供する



市町からの救援物資が届き配給する



県や他府県などからの救援物資が届き配給する。

避難所における「食の支援」について

1. 想定される支援内容

① 食料の確保

＊ 救援物資について

<支援できることは>

<留意することは>

②炊き出し

<支援できることは>

<留意することは>

2. その他配慮すべき点、課題について

学校給食再開にむけての支援について

1. 学校給食再開に向けてできることは？

① 給食の形態を（単独校・共同調理場）ふまえて考える

- ・ 給食室の状況はどうか
- ・ 食材の確保をどうするか
- ・ 献立を考えるにあたって留意することは
- ・ 給食指導で配慮することは

2. 災害時に学校給食の果たす役割を考える

3. 長期的な課題について考えられることは？

上級編	防災教育推進上の工夫				
所要時間	80分	人数	4～5人×6班	場所	研修室
ねらい	【防災（避難）訓練立案者等】 防災教育を推進する上での課題について、技術的な解決方法だけではなく、災害に強いまちづくりをめざした防災についての理念、教育への位置づけ、市民生活への位置づけなどを総合的に理解しその解決方法を見出す。				
研修内容	各学校で防災教育を実施するにあたっての課題を出し合い、その解決策を協議する。				
準備物	付箋（5×7.5程度、最低2色）、付箋を貼る台紙（A2程度）、ワークシート「防災教育推進上の工夫」-1、教材提示装置、スクリーン				
参 考	協議資料（ワークシート「防災教育推進上の工夫」-2）				

	内 容	活 動	備考〔学習単位〕
導 入 (3)	研修のねらい、進め方を確認する。	①ねらい、進め方について説明を聞く。	〔全体〕
展 開 1 (15)	各校の実践を聞き、課題等を確認する。	①アイスブレーキングを兼ねて名前と自校の地域の災害特性、防災教育の取組について協議資料をもとに発表する。 ②良い点と課題を挙げ、それぞれ色の違う付箋に記入しておく。 ※お互いに良い点と課題を見つける。	〔班別〕 ○発表時間各3分 ※地域防災において児童生徒の果たす役割や将来、防災の担い手となることを踏まえ、課題を見つける。
展 開 2 (35)	課題について改善策を検討する。	①課題、良い点を記入した付箋を並べ協議する課題を決める。 ②①の課題について、改善策を各自が付箋に記入する。（1枚に1つの改善策） ③改善策をまとめ、発表用紙に記入する。	〔班別〕 ○展開3での発表は教材提示装置を使うことを考慮して発表資料を作成する。

展開 3 (25)	①各班の協議内容を発表する。 ②発表内容、質疑応答を通して理解を深める。	①ポイントを絞って班ごとに発表。 ②質疑応答 ③解決できなかった点を全体で協議。	[全体] ○発表内容、質疑応答を通して、防災教育推進のため、技術的な解決方法だけでなく理念、教育活動への位置づけ等への理解が深まるよう積極的な協議を行う。
まとめ (2)	まとめ	①まとめを聞いて、自校での防災教育の推進に役立てる。	[全体] ○発表内容について講評し、まとめる

【留意点】

〈準備〉

- 各都道府県等の防災教育のねらいや研修講座に応じて協議テーマを考える。
- 災害に強いまちづくりを推進するためには、児童生徒の果たす役割や学校と地域の連携の在り方などについて協議することが大切である。
- 協議資料 ワークシート「防災教育推進上の工夫」-2の活用方法
 - ・事前に受講者へ配布し当日持参する
 受講者にとって、事前資料を作成することで自校の課題を認識でき、当日の協議が深まるが、発表時間が長くなることは否めない。
 - ・当日、その場で記入する
 受講者は、自校の取組について記憶を頼りに記入するので課題等が曖昧になりがちで協議が深まりにくい傾向がある。

〈進行〉

- 各学校での取組について情報交換も大切であるが、ここでは、得られた情報をもとに課題解決が進むようできるだけ協議時間の確保をしたい。

学校防災マニュアル（改訂版）「改訂版によせて」より抜粋

県民一人一人が災害への備えの大切さを理解し、人と人が支え合う地域社会をつくっていくことが安全・安心を支える基本であり、そうした「自助」「共助」の考え方を身に付け、進んで行動する「減災社会」の担い手を育成することが教育に課せられた使命です。

学校における防災教育推進上の課題について 〈発表用紙〉

〔 〕 班

課題	
改善策	・ ・ ・
気をつけた点	
その他	

平成 年度各学校での防災教育の取組について

学校名	氏名
-----	----

◇防災教育の取組と課題について（避難訓練も含む）※予定されている取組もご記入ください。

月 日	内 容

特徴的な取組（具体的にご記入ください）

--

課題

--

上級編（講師レベル）		災害時の対応シミュレーション（学校教育の早期再開）			
所要時間	120分	人数	4～5人×6班 （校種別で構成）	場所	教室
ねらい	【研修会の講師となる者】 災害時の学校教育の再開に係る研修の講師としての知識や指導力を身につける。				
研修内容	大規模災害により学校が休校となった場合の学校教育の再開に関する研修の講師を養成するため、過去の災害における経験や教訓を生かした指導・助言ができるよう模擬演習を行う。				
準備物	画用紙、模造紙、マジック4色程度				
参 考	EARTH ハンドブック（兵庫県教育委員会発行） （ http://www.hyogo-c.ed.jp/~kikaku-bo/EARTHhandbook/ ） 学校防災マニュアル（改訂版）（兵庫県教育委員会発行） （ http://www.hyogo-c.ed.jp/~somu-bo/bousaimanual/bousaimanual.htm ）				

	内 容	活 動	備 考〔学習単位〕
導 入 (10)	本時の目標と研修内容を知る。	①本時のねらいについて理解する。 ②研修の進め方を知る。 ③校種別に4～5人の班に分かれる。	〔全体〕 ○教員対象の研修会の講師として指導・助言をするという設定で進める。
展 開 1 (40)	学校教育応急対策と教育活動の早期再開について、内容を理解し、指導・緒言ができるようにする。	①班ごとに EARTH ハンドブック「2. 2 学校教育応急対策と教育活動の早期再開」（p.11～p.22）までを読み合わせる。 ②次の5つの項目について担当者を決める。 ・学校早期再開までの流れ ・応急教育に向けた流れ ・施設、校区の被害調査 ・災害情報の収集と発信 ・災害発生後の事務手続き ③担当項目について3～5分程度で説明する資料を作成し説明の練習をする。	〔班別〕 ○班ごとに音読して確認する。 ○画用紙や模造紙に説明ポイントをまとめる。 ○補助資料 p.82～p.85 参照

展 開 2 (20)	各班で相互比正を行う。	①各班で資料を使って説明を聞き合い、資料や説明の仕方について検討する。	〔班別〕
展 開 3 (40)	自分の班の発表と他の班の発表を聞き比べ、意見や感想を持つ。	①全員の前で、班ごとに発表する。 ②他の班が発表するときは、研修会の参加者になったつもりで聞く。	〔全体〕 ○発表者が研修会講師を務めているような雰囲気を作る。
ま と め (10)	発表内容について協議する。	①各班の発表について意見交換を行う。 ②EARTH ハンドブック「2. 6. 1 応急教育の実施について」(p.52)を読んでまとめとする。	〔全体〕 ○討論の時間を確保する。 ○意見や感想を発表しあうことによって、説明のスキルを互いに高め合う。

【留意点】

〈進行〉

- 講師には、災害時の学校教育再開に関わった経験のある教職員、震災・学校支援チーム（EARTH）員等が望ましい。
- 班内で担当する項目を分担し、全員に同等の責任を持たせることで経験年数の少ない受講者の実践力の向上を図る。

〈発展〉

- 学校教育の再開は、被災児童生徒の心のケアの面でも大きな効果が期待されることについて、教職員の共通理解が求められる。
- 学校教育の再開は、学校施設及び通学路の安全確保をはじめ様々な条件を総合的に判断して行われるものであり、災害からの復旧状況を具体的にイメージしながら再開への流れを理解することが求められる。

上級編（講師レベル）		災害時の対応シミュレーション（避難所運営）			
所要時間	120分	人数	5人×8班	場所	教室
ねらい	【研修会の講師となる者】 災害時の避難所運営に係る研修講師としての実践力を身につける				
研修内容	災害時に学校に開設された避難所運営及びその支援に関する研修会の講師を養成するため、過去の災害における経験や教訓を生かした指導・助言ができるよう模擬演習を行う。				
準備物	各学校の校舎配置図、避難所家族票等（補助資料 p.48～p.61）、PC				
参 考	EARTH ハンドブック（兵庫県教育委員会発行） （ http://www.hyogo-c.ed.jp/~kikaku-bo/EARTHhandbook/ ）				

	内 容	活 動	備 考〔学習単位〕
導 入 (20)	災害時の避難所運営の手順について理解する。	① EARTH ハンドブック「避難所開設から運営へ」（p.32）により避難所運営の手順を確認する。 ② 5名ずつ8班に分かれる。 ③ 班長、記録者を決定する。	〔全体〕 ○班の構成 EARTH 員役（1名） 教職員役（1名） 避難者役（3名） ○避難所の運営側、避難者の側双方から理解を深めるように進める。
展 開 1 (50)	避難者の受け入れ体制について理解する。	① 避難所の設置場所を確認する。（校舎配置図を持ってフィールドワークする。） ② 避難所の部屋割りを決定する。 ③ 避難者の誘導方法を検討する。	〔班別〕 ○避難所開設に向けて ・施設の安全確認 ・避難所としての開放区域の決定
展 開 2 (15)	避難者数の把握と災害対策本部への報告、連絡調整について理解する。	① 避難者家族票に記入する。 ② パソコンの避難者一覧様式に入力する。 ③ 避難者数の報告をする。 ※補助資料 p.53～65 参照	〔班別〕 ○避難者の受け入れ ・家族票への記入指示 ・家族票への記入 ・避難者一覧表の作成 ・避難者誘導の呼びかけ ・災害時要援護者への対応

展開 3 (10)	自治組織づくりの方法について理解する。	① 自治組織を立ち上げるための組織を編成する。(EARTH ハンドブック p.36、p.129 参照)	〔班別〕 ○避難所運営のための委員会の設立 ・避難所における生活ルールの確認 ・ペットの飼い主への注意 ・避難所日誌への記入
まとめ (25)	避難所運営について対応手順の課題を協議する。	① 各班の活動を通して明らかになった課題を発表し、全体で協議する。	〔全体〕 ○避難所の運営状況をイメージしながら課題解決の方法を具体的に考える。

【留意点】

〈準備〉

- 行政が作成した避難所運営マニュアルや過去の災害時の避難所運営の事例を収集する。

〈進行〉

- 講師は、避難所運営の経験のある EARTH 員や行政の担当者が望ましい。

〈発展〉

- 本研修を校内研修として実施することにより、避難所運営について教職員の共通理解が得られ、さらに、避難所運営マニュアルの作成や見直し、学校防災体制の見直しに役立つことが期待される。

避難者家族票

世帯 代表者		住 所 電 話	() —			
避難所入 所 年 月 日	年 月 日() 時 分	<家屋の被災状況> 全壊・半壊・一部損壊・断水・停電・ガス停止 電話不通・不明・その他()				
	フリガナ 氏 名	年 齢	性 別	児童生徒 学 校 名 学 年	要援 護 者	今すぐ生活に必要な物 (紙おむつ、粉ミルク、薬等)
1						
2						
3						
4						
5						
6						
<親族などの連絡先> 住所 氏名 電話 () —				<要援護者の内訳> ア) 乳児 イ) 幼児 ウ) 65 歳以上高齢者 エ) 外国人(日本語がわかりにくい方) オ) 要介護者 カ) 身体障害者		
その他特記事項		例：要介護、要手話、要通訳など				
安否の問い合わせがあったときに、こたえてよろしいか。						はい いいえ
退出年月日		年 月 日 () 時 分				
退出後の 連 絡 先	住 所					
	電 話					
連絡先の問い合わせがあったときに、こたえてよろしいか。						はい いいえ

避難者一覧表 (場所: 体育館・ , 室) (例)

〇〇小学校 № ()

	氏名	ふりがな	年齢	性別	住 所	電 話	入	出	退出先
1				男・女			/	/	
2				男・女			/	/	
3				男・女			/	/	
4				男・女			/	/	
5				男・女			/	/	
6				男・女			/	/	
7				男・女			/	/	
8				男・女			/	/	
9				男・女			/	/	
10				男・女			/	/	
11				男・女			/	/	
12				男・女			/	/	
13				男・女			/	/	
14				男・女			/	/	
15				男・女			/	/	
16				男・女			/	/	
17				男・女			/	/	
18				男・女			/	/	
19				男・女			/	/	
20				男・女			/	/	
21				男・女			/	/	
22				男・女			/	/	
23				男・女			/	/	
24				男・女			/	/	
25				男・女			/	/	
26				男・女			/	/	
27				男・女			/	/	
28				男・女			/	/	
29				男・女			/	/	
30				男・女			/	/	

避難所 日 誌

避難所開設	日 目	月	日	曜 日	天 気 (	) 記 録 者																
避難 者 数																						
避難場所	避難者総数	避難者内訳										要支援者 (内数)										
		2歳乳児以下		小学生以下		小学生		中学生		高校生		64歳以下 大人		65歳以上		要介護者		身体障害者		外国人		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
体育館																						
小計																						
合計																						

避難所運営委員会 (会議内容)

総務班

情報班

物資班

救護班

管理班

その他

特記事項 (引継事項)

総務班

情報班

物資班

管理班

その他